

トルコ・シリアの人たちに支援の手を！（２）

校長 松本 雅史

おはようございます。先週の全校朝会でもお話しましたが、2月6日に起きたトルコとシリアの大地震の被害はいよいよ凄まじいものとなっています。亡くなられた方は4万人を超えているとのお話に、胸がとても痛みます。4万人といってもぱっとイメージできないかもしれません。小平第五小学校では、毎日給食を800食つくっています。この800が、五小の子どもと先生を合わせた数とっていいでしょう。すると4万は、その50倍です。本当に痛ましいことです。生き残った人たちもぎりぎりの状況の中で生活しています。テレビで親戚が集まって避難生活をしているニュースを見ましたが、わずか2部屋に45人で生活していました。農家のビニールハウスで生活している家族もありました。満足に水も食べ物もないだけでなく、トイレの問題がとても大きいといえます。

こうした人たちに救いの手を差し伸べようと、様々な団体が動き出しました。「国境なき医師団」もその一つです。「国境なき医師団」は、戦争や貧しさ、自然災害などで危機に直面する人たちに緊急医療活動を行っている団体です。1971年にフランスで設立され、1999年にはノーベル平和賞を受賞しました。日本人も多くこの活動に参加していて、一昨年は、31の国と地域で約90人のスタッフが活動しました。

「国境なき医師団」の日本会長である中嶋優子医師は、「困っている人の役に立ちたいという思いがあれば、それが始まりです。社会全体が、困っている人に優しくなって、取り組んでいくようになることを強く願っています。」と、ホームページの中で語られています。「みんなが、困っている人に優しくなる」というのは、持続可能な社会をつくる一番大切な気持ちです。今回の災害は、被災者数でいうならば、東日本大震災や関東大震災をも超える災害となっています。少しでもいいから、何か私達にできることはないだろうかと考え、代表委員会のみんなに「募金」を呼びかけました。みんな、快く同意してくれました。今、代表委員会は、6年生を送る会や五小郵便局の活動を行っていて、大忙しです。それにもかかわらず、やろうと言ってくれました。この後、代表のメンバーに詳しいことをお話してもらいたいと思いますが、一緒に呼びかけを行ってくれる人は、青少年赤十字のビブスを用意しておきますから、これをつけて一緒に行いましょう。秋にユニセフ募金をしたばかりです。決して無理をする必要はありませんが、できる範囲での気持ちを集めて、日本赤十字社を通じて支援が届くようにしていきたいと思います。どうぞよろしくお祈りします。

こっきょう いしだん
「国境なき医師団」

1999年にノーベル平和賞



にほんかいちょう なかじまゆうこいし
日本会長・中嶋優子医師

「^{こま}困っている人の^{ひと}役に^{やく}立ちたいという^{おも}思
いがあれば、それが^{はじ}始まりです。社会全体^{しゃかいぜんたい}
が、^{こま}困っている人に^{ひと}優しく^{やさ}なって、^と取り組^く
んでいくようになることを^{つよ}強く^{ねが}願っています。」

<募金活動>

2月24日（金）朝 昇降口

2月28日（火）朝 昇降口

昼休み 花小金井駅前

3月2日（木）朝 昇降口



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society